

調査研究部報告書情報シート

記入年月日: 2015年4月20日

| | | | |
|-------|--------|------|-----------|
| 情報No. | S-15-1 | 情報区分 | プラ循環協調査報告 |
|-------|--------|------|-----------|

| | | | | | |
|------------|--|------|----|--------|-------|
| 題名 報告書名 | 2014年度 廃プラスチックの動向調査報告書 (RPF原料用廃プラスチックの需給動向) | | | | |
| 報告年月 | 2015年3月 | ページ数 | 88 | 著者・出版元 | プラ循環協 |

【キーワード】

| | | | |
|------|--|-------|----|
| 処理方式 | | 要素技術 | |
| 樹脂類別 | | 化学物質名 | |
| 形状別 | | 用途別 | |
| 法規制 | | 国別 | 日本 |

| | |
|--------|--|
| 調査研究内容 | <p>【調査の背景と目的】</p> <p>RPF (Refuse derived paper and plastics densified fuel)が開発されたことによって、単純焼却もしくは埋立処分されていた廃プラスチックの有効利用手法の選択肢が拡大し、有効利用量が増えた。</p> <p>RPF 原料用廃プラスチックの使用量、および需給動向と発生源別の構成を明らかにし、フロー図の精度向上に資するとともに、併せて RPF 関連の情報を収集・整理する。</p> <p>【調査の概要】</p> <p>①RPF に関して、PWMI の発行済みの報告書、公表されている外部の報告書や文献等より情報を収集・整理した。</p> <p>②PWMI が毎年行っているアンケート調査より、固形燃料に関するアンケート結果を用いて、RPF 原料用廃プラスチックの排出区分・利用量等および RPF 製造業界の規模(生産能力、製造量等)の視点から整理・解析した。</p> <p>③RPF に関する調査を行っており、情報を多く持っている3団体、および(一社)日本 RPF 工業会会員企業の中から、3事業所のヒヤリングを実施した。</p> |
| | <p>【調査結果】</p> <p>1) RPF として有効利用された廃プラスチック量 (RPF の生産実績×平均廃プラスチック配合率)より、2013年にRPFとして有効利用された廃プラスチックの量を推計した。</p> <p>2) RPF 原料用廃プラスチックの需給 一般系廃棄物由来の廃プラスチックと産業系廃棄物由来の RPF 原料用廃プラスチックについて、各々の量と比率を推計した。</p> <p>3) RPF 中の廃プラスチック RPF を製造する上で廃プラスチックは、RPF に要求される高い発熱量の供給源である。 RPF 中の平均廃プラスチック配合率と平均の発熱量を求めた。またその分布についても調査した。</p> <p>4) その他 RPF の JIS 規格制定の影響等を調査した。 RPF 製造事業者のリストを作成した。</p> |
| 備考 | |